

# ハイライトよねやま

(財)ロータリー米山記念奨学会  
2007年11月12日発行

## 1. 寄付金速報 米山月間の結果は？

10月までの寄付金は、前年同期に比べて3.3%減、約1千8百万円の減少でしたが、先月(4.6%減)に比べて減少幅が小さくなりました。普通寄付金が2.7%減、特別寄付金が3.8%減です。

10月の米山月間には、当財団設立40周年を記念して100万円を寄付していただいたクラブもあり、今月の寄付累計額5億3千万円は、2003年度以降5カ年の間で2番目に高い金額となっています。上期の残り2カ月も引き続きご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

10月までの寄付金累計 5カ年推移



## 2. 2008 学年度の米山奨学金申込状況

2008学年度の米山奨学金(学部・修士・博士課程奨学金、地区奨励奨学金)には、全国344校から1,378名の応募がありました。

申込者を国・地域別にみると、中国が58.3%(前年度比2.1%)、韓国11.7%(2.1%)、台湾6.0%(0.7%)、その他23.9%(+4.8%)で、「その他」国籍出身者の申込み割合が増加しています。課程別では、博士課程が30.9%(0.7%)、修士課程57.1%(+0.5%)、学部課程11.0%(±0.0%)となりました。

指定校になったにもかかわらず、推薦者0名の指定校が毎年発生します。今年は64校(前年度68校)でした。事前の情報収集など、留学生在籍状況の確認をお願いいたします。なお、「クラブ支援奨学金」には8地区13クラブから、「地区奨励奨学金」は6地区9校の指定校に対し、5校から14名の応募がありました。これから11月下旬~1月下旬にかけて、地区選考委員会による書類選考・面接試験が実施され、2月中旬には新規採用者595名(2007年11月現在)が決定します。

## 3. 台湾学友会が中越沖地震へ義援金

7月に発生した新潟県中越沖地震は、台湾でも大きく報道されました。そのニュースを受け、台湾の米山学友会が立ち上がりました。

(社)中華民國扶輪米山会(台湾米山学友会)の阮<sup>ゲン</sup>允<sup>インキョウ</sup>理事長(1971-74/神戸大学大学院/神戸RC)は、9月の理事会で中越沖地震への義援金送付を提案し、全会一致で承認。呼びかけを始めると多くの学友から手が上がり、1週間で目標額30万円に達しました。阮理事長は「地震の怖さ、復興までの道のりの長さや辛さは私たちもよく知っています。1999年の台湾中部の大地震の救援に、日本から多くのボランティアが駆けつけてくれたことは忘れられません」と、寄付に込めた思いを語ってくれました。なお、集められた義援金は、陳思乾前理事長が来日した際、坂下事務局長に手渡されました。



陳思乾前理事長(左)

台湾学友会は、2004年の中越地震の際も30万円の義援金を送っています。

## 4. ネパールで貧困女性の自立支援に取り組むアルチャナさんが来訪

母国ネパールで、縫製や刺繍の技術を教えて貧困女性の自立を支援する職業訓練施設「ルーザー・トレーニングセンター」を設立した米山学友のアルチャナ・シュレスタ・ジョシさん（2001-02 / 鈴鹿国際大学 / 鈴鹿西 R C）が 10 月 26 日、米山奨学会事務局を訪問してくれました。



アルチャナさん(左)と松本さん

彼女の活躍は、「ロータリーの友」よねやまだより(2007 年 3 月号に掲載)や豆辞典などでも紹介してきました。懸命な努力で授業料免除プログラムを継続するアルチャナさんの姿に、世話クラブの頃からのアドバイザーでもある松本裕夫さん（現：芦屋 R C 会員）はじめ、多くのロータリアンが共感し、支援の輪が広がっています。（松本さんは、「ルーザー支援の会」を立ち上げています。関心のある方は matsumoto.ah@gmail.com まで）

昨年、母国のラトリプール R C に入会し、ロータリアンにもなりました。いつかは専門学校をつくりたいという夢に向かって挑戦を続けるアルチャナさんに、心からのエールを送ります。

## 5. 中国の学友から 1,000 ドルの寄付【米山学友 張 虞安さん】

アメリカのベンチャー企業で新薬の開発・研究をしている米山学友、張<sup>チョウ</sup> 虞<sup>イウ</sup>安<sup>アン</sup>さん（中国 / 1998-2000 / 近畿大学大学院）が、世話クラブの交野 R C（第 2660 地区）を通じて、アメリカから米山奨学会へ 1,000 ドル（日本円に換算後、11 万 2,030 円）を寄付してくれました。



張虞安さん(右)とご家族

米山月間の 10 月は自身の誕生日でもあるという張さんは、半年前に現在の職場へ転職し、奉仕の機会を探していたと言います。交野 R C の猪奥年記念会長は、海外に居てなおロータリーや米山奨学会へ心を寄せ続ける張さんの行為に感激し、同額の寄付をしました。

当初、匿名での寄付を申し出、表彰を固辞していた張さんですが、会員たちの勧めもあり、来る 12 月の地区大会では第 1 回米山功労者として新谷ガバナーから表彰されることになっています。

### 張さんからのコメント

いつか経済的に成功したら米山奨学会へ寄付しようと思いつきながら、なかなか行動にうつせないうでいました。そんなある日、新聞で“豊かな生活への知恵”という記事を読みました。そこには一つの方法として、収入の 1 割を社会へ還元することが示されていました。自分がやっていることは、ただ自分のためだけでなく、人間全体の生活につながり、人へ希望を与える以上に自分の希望を確認できる、と。今回の寄付でそういう感覚を体験することができました。いただいた奨学金の金額より、皆さんの真心と期待の方がもっと重みがあると感じています。恩返しのために米山奨学基金を増やすのは、私が一生をかけて目標とすることの一つです。今回の寄付は手始めに過ぎません。今後、10 倍、また 100 倍の寄付をしたいと思っています。どれくらい早く達成できるかわかりませんが、一生をかけて頑張ります。真実によって真心を引き出すロータリアンの皆さんに、改めてお礼を伝えたいと思います。